

府中市立図書館サービス状況調査票
令和6年度実施事業の評価（評価実施時期：令和7年度上半期）

基本方針	提供するサービス	事業内容	指標	（参考）令和5年度実施事業の評価			令和6年度実施事業の評価			
				実績	評価	今後の方向性	実績	評価	今後の方向性	
1	市民の生涯学習を支える図書館 (1) 貸出し・閲覧サービス	ア 幅広い分野の資料をパワンスよく揃え、魅力ある書架を構成し、貸出し・閲覧サービスを行います。 イ 利用者の求める資料を採りやすいように配架し、読書を楽しめる十分な閲覧スペースを設けます。 ウ 未返却資料がある利用者には、貸出しの制限を行い、利用の公平性を保ちます。 エ 市内に活動拠点を置く団体やグループが、より多くの資料を活用できるよう団体貸出を行います。	・所蔵資料数（図書、雑誌、視聴覚資料、マイクロフィルム） ・貸出数（図書（雑誌含む）、視聴覚資料） ・電子書籍サービス（タイトル数、ログイン数、閲覧貸出数）	・所蔵資料数 図書1,572,175冊 雑誌1,394タイトル 視聴覚資料66,797点 マイクロフィルム4,000点 ・貸出数 図書・雑誌1,639,619冊 視聴覚資料135,377点 ・電子書籍 タイトル数11,933点 ログイン数25,318回 閲覧貸出数34,011点	Ｂ ・魅力ある書架を構成するために不用品となった資料（情報が古くなったものや状態の悪いものなど）を整理し、利用者のニーズを考慮しつつ、資料の充実を図った。 ・電子図書館に子ども向けの読み放題コンテンツを購入し、さらなる利用拡大を図った。	継続 ・幅広い世代の多様な興味や関心、課題解決に役立つ資料の充実を図り、引き続き、利用者のニーズを考慮しながら、紙媒体と電子媒体のパワンスを考え、蔵書を構築していく。 ・学校でも利用しやすい電子コンテンツの拡充を検討する。	委員の意見等 貸出し・閲覧サービスを支えるのは、豊富な情報と居心地の良い空間、そして利用者サービスを支える図書館職員の存在である。府中市立図書館はこれらが揃っており、評価したい。蔵書については、これまでの積み重ねも含め、豊富な資料群を収め提供している。令和5年度も寄贈資料を含めると30,000冊近い資料が新たに追加された。新鮮な資料の補充は、利用の活性化を促すことにつながる。それを可能にするのは資料費の確保である。毎年減少傾向にあるが、資料費の充実も始まっている。電子書籍の特性（音声読み上げなど）を活かし、今後も充実も努めてもらいたい。また、利用方法を高齢者や子どもにも周知する必要がある。なお、電子書籍の費用対効果については、常に意識してもらいたい。 除籍処理については、「府中市立図書館資料保存基準」及び「府中市立図書館図書資料等除籍要綱」に則り、適切に行われている。	実績 ・所蔵資料数 図書1,582,419冊 雑誌1,363タイトル 視聴覚資料67,152点 マイクロフィルム4,000点 ・貸出数 図書・雑誌1,544,933冊 視聴覚資料120,227点 ・電子書籍 タイトル数13,176点 ログイン数28,508回 閲覧貸出数38,708点	評価 Ｂ ・魅力ある書架を構成するために不用品となった資料（情報が古くなったものや状態の悪いものなど）を整理し、利用者のニーズを考慮しつつ、資料の充実を図った。 ・教育委員会が実施している、不登校の児童・生徒を対象とした仮想空間（VLP）の中に、電子図書館のリンクを貼り、児童・生徒が図書館で利用登録をなくしても電子書籍を読むことができるようID・パスワードを発行した。 ・市立小・中学校においてタブレットで電子書籍を読んでもらうため、電子書籍の子どもの向けコンテンツを充実させる。また、その活用方法についてもPRを行っている。	委員等の意見 昨年の評価でも指摘したが、貸出し・閲覧サービスを支えるのは、豊富な情報と居心地の良い空間、そして利用者サービスを支える職員の存在である。府中市立図書館には、それが揃っており評価したい。蔵書の多さが府中市立図書館の魅力の一つである。様々な世代、興味・関心に応じられるよう、引き続き幅広い蔵書資料の所蔵に努めてもらいたい。それを支えるのは、資料費であり、一定額を確保している点も評価する。一方で、充実した蔵書は読書に興味・関心のある人や、調べる目的の人にとっては魅力となるが、図書館に心のない人もまだ多い。蔵書の充実と併せて、子ども・親子を対象としたイベント、学校での読書活動の充実等に資する取り組みなど、子どもの頃から読書に親しむ機会を作ることが大切である。また、話題の映画・ドラマ等に関連した特集など魅力的な企画の実施、市が企画するイベントなどの展示コーナーの設置、それに対する広報を積極的に行うなど、市民が府中の図書館に行きたくなるような働きも必要である。 電子書籍の提供も順調で、ログイン数も増えている。今後もコンテンツの拡大に努めてもらいたい。なお、電子書籍の費用対効果については、常に意識する必要がある。電子図書館は、24時間利用可能で、利用者の利便性が大幅に向上する効果もある。一方で利用できる資料の数が限られていること、インターネット環境がないと利用できないこと、そして資料の保存ができないことなどの不利な点もあるため、使い方の講座などを開催し、分かりやすく周知するようにもしてほしい。 市立小中学校の児童・生徒がタブレットで電子書籍を読むことができるようになったことに期待すると同時に、活発に利用されるように各学校で使い方のレクチャーを徹底してほしい。また、VLPの中に電子図書館を置くため、電子書籍を読めるようにしたこととは違っていた。層が分かれて、読むことのできる電子書籍の活用は児童の読書の量と読書の高める可能性もあり、時間をかけて丁寧に行ってもらいたい。 不登校児童への取り組みも高く評価する。本校校児童の間には今後も多岐にわたって考えられ、電子図書館を使って子どもが外に出ずに図書館の世界に接することができることは有意義である。 なお、電子書籍では味わえない本の魅力もある。その点を子どもにも伝えることも図書館の大切な仕事であることも抑えておいてほしい。 他市との共同利用協定は利便性が高く、効果的で市民にも喜ばれているので、範囲を拡大することも検討してもらいたい。 ※VLP…インターネット上に構築された3次元の仮想空間で、パソコンやタブレットなどの端末を通して、アバターを操作し、コミュニケーションをとることができる教育支援ツールのこと。利用者の日常的な利用を想定し、様々なコミュニケーション機能を実装している。
2	予約・リクエストサービス	ア カウンターや電話での予約に加え、OPAC（オンライン蔵書目録検索システム）やインターネットからの資料の予約など、利用者のニーズに合った予約方法を選択できるように環境整備に努めます。 イ 利用者が望む資料について、可能な限り迅速な資料提供を行います。 ウ 所蔵していない図書や雑誌へのリクエストは、購入及び他自治体の図書館などとのネットワークを活用した相互貸借を行うことで、利用者の資料要求に応えます。	・リクエスト受付件数（図書、雑誌、視聴覚資料） ・都内公立図書館からの借用件数 ・都内公立図書館からの借用件数 8,257件 ・国立国会図書館、都外公立図書館、大学図書館等からの借用件数138件	Ｂ ・インターネットによる国会図書館、都外公立図書館所蔵資料の借用受付を開始し、利用者の利便性向上に努めた。	継続 ・引き続き、利用者のニーズや地域性・社会的ニーズを把握し、魅力ある資料収集を行うとともに、市民からの資料要求に関する申請のオンライン化を推進する。 ・非来館型サービスの一種として、遠隔複写サービスの開始に向けて調整を進める。	委員の意見等 リクエストの受付件数も回復してきている。特にインターネットからのリクエスト申込み件数が増加しており、利便性が向上している。また、他の図書館からの相互貸借も適切に行われており、利用者の情報要件に応えている。今後も他市図書館との連携の拡充に努めてもらいたい。 インターネットによる検索・予約の拡充は時代の趨勢といえるが、高齢者などのインターネット利用に慣れない人々への配慮も必要である。 また、インターネットによる検索は特定の情報について即座に結論を得ることが出来るが、膨大な蔵書を目の前にすることで、関連する領域の深層な知識を発見することがある。膨大な蔵書の存在やそれを活用することの意義を多くの市民に知ってもらうためにも図書館の存在を説く機会も重要である。 予約が多数入っている本は順番が早く回ってくるような工夫をしてもらいたいという要望はある。キャンセル数が多い程度であり、その点も踏まえながら対応に努めてもらいたい。 他自治体の図書館向け遠隔複写サービスについての検討が始まっており評価できる部分なので、実現を目指してもらいたい。	実績 ・リクエスト受付件数 総数566,128件 （内訳）図書508,731件 雑誌25,789件 視聴覚資料31,608件 ・都内公立図書館からの借用件数 8,932件 ・国立国会図書館、都外公立図書館、大学図書館等からの借用件数110件	評価 Ｂ ・大学図書館、専門機関等への紹介状のオンライン申請を開始し、利用者の利便性向上に努めた。	委員等の意見 リクエストの受付件数は、だいぶ減少している。Webによるリクエスト件数も減少しており、気になる点である。貸出点数が減っているのでも連動した結果ではあるが、他の図書館からの借用件数が約700件増え、市民の要望をより把握することが必要である。また、リクエストをスマートフォンから行う場合、画面表示が小さいことや遷移の際にログアウトしてしまうなど使いにくい点がある。使い方の改善や丁寧な説明に努めてもらいたい。 遠隔複写サービスは、著作権処理のその後を注視し、引き続き実現に向けて対応してもらいたい。	
3	レファレンスサービス	ア 図書館資料のほか、オンラインデータベースやインターネットを活用して的確なレファレンスを行うことにより、市民の暮らしの中の課題解決に応え、調査研究や学習を支援します。 イ 館内カウンターのほか、電話や電子メールなど、利用者のニーズに応じて幅広く窓口を設けることにより、レファレンスサービスを行います。 ウ 中央図書館は、地区図書館で受ける解決困難なレファレンスを支援します。	・相談受付件数 ・市民向けレファレンス講座の回数 ・職員向けレファレンス研修の回数	Ｂ ・職員のスキルアップを図り、市民からの様々な相談に対応できた。	継続 ・図書館資料、データベースなどを使用し、市民からの様々な相談に対応した。 ・市民向けレファレンスサービスは、図書館だからこその提供できる公共サービス（市民サービス）といえる。中央図書館の専用窓口や検索レクチャー等は有効であり、相談件数が増加してきている点は評価したい。しかし、まだ認知不足であり、広報・PRにも力を入れてほしい。市民が主体的に学習活動をする上でも資料の探し方などで支援することが必要である。また、利用者に対してこのような有効なサービスがあることを、来館者にも非来館者にももって広報する必要がある。 市民向けレファレンス講座や図書館職員向け研修会の実施は評価できるが、市民向けレファレンス講座の開催回数及び参加者数が少ない。生涯学習協議会との連携等で課題やテーマ設定をしてはどうか。図書館ならではの学習支援活動の展開ができてほしい。 レファレンス事例については、国立国会図書館のレファレンス協同データベース（※1）への登録や、プライバシーに注意しながらパスファインダー（※2）などにして公開すると役に立つと同時にレファレンスサービスの理にもなる。 なお、地区図書館でも相談はあると思うが、記録がないので、今後は記録を残すなどの対応を望みたい。 ※1 レファレンス協同データベース…国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築しているレファレンスサービス支援のためのデータベースのこと。 ※2 パスファインダー…調べものをするときに役立つ資料や調べ方の手順をまとめた手引きのこと。	委員の意見等 レファレンスサービスは、図書館だからこその提供できる公共サービス（市民サービス）といえる。中央図書館の専用窓口や検索レクチャー等は有効であり、相談件数が増加してきている点は評価したい。しかし、まだ認知不足であり、広報・PRにも力を入れてほしい。市民が主体的に学習活動をする上でも資料の探し方などで支援することが必要である。また、利用者に対してこのような有効なサービスがあることを、来館者にも非来館者にももって広報する必要がある。 市民向けレファレンス講座や図書館職員向け研修会の実施は評価できるが、市民向けレファレンス講座の開催回数及び参加者数が少ない。生涯学習協議会との連携等で課題やテーマ設定をしてはどうか。図書館ならではの学習支援活動の展開ができてほしい。 レファレンス事例については、国立国会図書館のレファレンス協同データベース（※1）への登録や、プライバシーに注意しながらパスファインダー（※2）などにして公開すると役に立つと同時にレファレンスサービスの理にもなる。 なお、地区図書館でも相談はあると思うが、記録がないので、今後は記録を残すなどの対応を望みたい。 ※1 レファレンス協同データベース…国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築しているレファレンスサービス支援のためのデータベースのこと。 ※2 パスファインダー…調べものをするときに役立つ資料や調べ方の手順をまとめた手引きのこと。	実績 ・相談受付件数4,100件、1日平均件数約12.8件 ・レファレンス講座1回実施 参加人数28人「府中のことば—東京のなかのことば—」 ・レファレンス研修4回実施	評価 Ｂ ・職員のスリルアップを図り、市民からの様々な相談に対応できた。	委員等の意見 相談件数は減少している。インターネットや生成AIなどで簡易な調べものは済むようになり、相談件数の減少は府中だけでなく全国的な傾向である。ただし、インターネット等を活用しても解決に至らない事例も多く、そのようなことに対応できるレファレンスサービスの役割についても周知してもらいたい。また、レファレンスサービスは図書館が提供できる専門性の高いサービスである。相談件数の減少は、利用者自身の探求力が付いてきたともいえるが、利用者自身ではどうしても偏った見方をしてしまう場合もあり、図書館職員が専門性を活かしてサポートする意義は大きい。また、「インターネットで検索しても出てこない情報があるため、図書館に来た」という利用者もいる。ハイブリッドな情報活用で「探求力」のあいな図書館職員を求めているとも言える。図書館職員のサポートによって、市民が誇りを持って「わがまちの図書館」と実感できるようにすることを目指す。市民向けレファレンス講座は、一回行われた。「調べ方」や「情報検索」のワークショップを学んでもらうという重要な役割を担っているが、それがストレートに伝わってこない場合もある。調べ方のスキルを身につけるための講座であることを分かりやすくする必要もある。たとえば、「調べたい（課題）」とか「こんな見つけ方あります」とか、平易なキャッチコピーを前面に押し出す方法もある。開催回ごとに特集するテクニックやスキルを伝えるなどの工夫もほしい。また、テーマ設定は、一般教養講座のなかのだけでなく、例えば、コミュニティの活性化を検討する際、自治会や町会で様々な情報を知る必要があるが、その情報を収集するための具体的な切り口となるテーマを設定するなど、府中市が示す生涯学習の方向性に沿うことも必要であろう。 子ども達が自分で調べものをする経験を持つことは大切であり、子どもによるレファレンスサービスの活用事例などを紹介し、子ども達に調べもの楽しさを伝える取り組みも必要であろう。 なお、レファレンス事例については、国立国会図書館のレファレンス協同データベースへの登録が令和5年度、令和6年度と0件であった。パスファインダー（調べ方案内）として公開できる事例もあるのではないかと。	
4	ビジネス支援サービス	ア ビジネス関係資料コーナーを設置します。 イ 資格取得やキャリアアップのための資料及び情報を提供します。 ウ 市の産業振興部門などと連携し、産業活動や起業に関する資料及び情報を提供し、地域活性化を側面から支援します。	・ビジネス支援に関する講座の回数	Ｂ ・ビジネスに関する最新情報を利用者に提供するため、新聞図書やチラシ等を取付け、配架することができた。 ・年1回のビジネス講座を開催し、参加者からの評価は高かった。参加人数43人「よはくはくの仕事」 ・年1回のビジネス講座を開催し、参加者からの評価は高かった。参加人数43人「よはくはくの仕事」 ・年1回のビジネス講座を開催し、参加者からの評価は高かった。参加人数43人「よはくはくの仕事」	継続 ・ビジネス関連の蔵書を充実するとともに、利用者が手に取りやすいコーナーの設置に努める。 ・講座を実施する。 ・適切な除籍を引き続き行い、展示や一般書棚の表示を見直し、しごと情報コーナーを周知する。 ・商工会議所などの関係機関と連携を図り、チラシや企業情報の充実を図る。 ・企業からの就職情報提供を幅広く求める。	委員の意見等 現役の勤労者に有効な情報を提供し、各世代の抱える課題についてその問題解決や新たな目標設定に必要な情報が提供出来るようビジネス支援コーナーを設けて周知することは有効で、その取組を評価したい。ただ、コーナーがあまり目立たないため、企画展示を行うなど、目立つ工夫が必要である。 また、IT、特にAIの発展は経済・産業構造に大きな影響を及ぼしている。近時ではホワイトカラー層の労働環境の変化が指摘されてきており、地域においても自主学習を必要とする人が増えていくことになる。特に、起業を目指す人や、中小・個人企業への対応にも必須であり、こうした労働・経済環境への対応を明示的に支援するプログラムが必要である。 その点、ビジネス講座に43名が参加したことは評価できる。チラシ配布にとどまらず、講座も関連部署と連携しての実施や、ビジネス講座の出張開催を検討しても良い。 なお、ビジネス支援の場合、資料の鮮度や、資料の鮮度は大切で、適切な除籍を行ったことは評価したい。また、ビジネス支援図書館推進協議会へ参加することも有効である。	実績 ・ビジネスに関する最新情報を利用者に提供するため、新聞図書やチラシ等を取付け、配架することができた。 ・年1回のビジネス講座を開催し、参加者からの評価は高かった。参加人数43人「よはくはくの仕事」 ・情報が良い・複本など、適切な除籍を引き続き行った。	評価 Ｂ ・ビジネスに関する最新情報を利用者に提供するため、新聞図書やチラシ等を取付け、配架することができた。 ・年1回のビジネス講座を開催し、参加者からの評価は高かった。参加人数43人「よはくはくの仕事」 ・しごと情報コーナーに関する資料を一般書棚に、しごと情報コーナー周知の表示を作成するとともに、コーナーの配架を工夫し、利用の向上に努めた。	委員等の意見 近年、ビジネスへの関心も高まりつつある。幅広いビジネス支援が必要であり、特に図書館では地域の中企業や個人事業主向けの情報発信・情報提供も必要である。 また、ビジネス支援の場合、資料の鮮度は大切で、適切な除籍を行ったことは評価したい。ビジネス講座の開催が好評で、参加者の評価も高かった。特に、高まりをみせるリスキリングなどの動きなどに敏感に捉えながら他とは違う、図書館独自のビジネス講座が増えたら、「仕事に役立つ図書館」として利用の拡大につながると思う。ビジネス講座担当職員の負担が過重にならない範囲で、講座の実施回数を増やすことも検討してもらいたい。 「しごと情報コーナー」のガイド表示や商工会議所やビジネス支援を行っている団体などの関係機関との連携によってチラシ等の配布強化に努めている点は評価したい。なお、チラシ等の配布に留まらない連携事業があってもよいのではないかと。 また、コーナーがあまり目立たないため、企画展示が同時に行われるなど、目立つ工夫が必要であろう。 ※ リスキリング…企業が従業員に新たなスキルを身につけさせる取り組みや、個人がキャリアアップのためにスキルを学び直すこと。	

府中市立図書館サービス状況調査表
令和6年度実施事業の評価（評価実施時期：令和7年度上半期）

基本方針	提供するサービス	事業内容	指標	（参考）令和5年度実施事業の評価			令和6年度実施事業の評価				
				実績	評価	今後の方向性	委員の意見等	実績	評価	今後の方向性	委員等の意見
2 子 ど も の 生 き る 力 を 育 み、 青 少 年 に も 魅 力 あ る 図 書 館	(8)児童サービス	ア 魅力ある絵本やよみものを豊富に揃え、子どもたちが本に親しみ、自ら考え、学ぶ力を育むことのできるサービスを提供します。	・児童書所蔵数 ・企画テーマ展示の回数 ・おはなし会の回数 ・ブックトークの回数 ・赤ちゃん絵本文庫の回数 ・児童向けイベントの回数 ・おすすめ図書リストの作成数 ・子ども読書活動推進委員会の開催回数 ・子ども読書活動推進委員会主催イベントの開催数	・児童書所蔵数 359,196冊 ・企画テーマ展示 16回 ・おはなし会 中央：86回 延べ1,067人 地区：288回 延べ1,735人 ・ブックトーク 4回 延べ20人（中央） ・赤ちゃん絵本文庫 36回 886人登録 ・児童向けイベントの回数 中央：6回 延べ1,127人 地区：53回 延べ4,218人 ・おすすめ図書リストの作成数 新規2種 継続6種 ・子ども読書活動推進委員会の開催回数 5回 ・子ども読書活動推進委員会主催イベントの開催数 11回（※雨天のため12回のうち1回中止） 延べ1,103人 ・「第5期府中市子ども読書活動推進計画」の策定	・各イベントについて、概ね大きな制限なく実施することができた。 ・地区図書館では、各施設等のイベントと連携した事業を展開し、参加者の増加に寄与することができた。 ・市内関係部署と連携し、令和6年度から令和11年度までの6年間を計画期間とする「第5期府中市子ども読書活動推進計画」を策定した。	・「第5期府中市子ども読書活動推進計画」に基づき、引き続き読書環境を整備し、おはなし会や読書キャンペーンなど、子どもと本を結びつけるための魅力ある取組を行う。 ・地区図書館では、施設のイベントと連携した事業を行う。	児童サービスについて多彩な事業が行われている。また、おはなし会は年齢にあった企画を行っている点も良い。図書館利用が少なくなり始める小学校高学年向けの「よむよむ探検隊（ブックトーク）」なども評価できる。また、「赤ちゃん絵本文庫」も子育て支援として良い取組である。タイムリーな企画展示や講演会も評価したい。パンフレット類の作成・更新も適切であった。 子ども時代の学習経験は特に重要である。読書による効能について直接的に伝えることをは重要な施策と考える。学習することの楽しさを広げ、関心と呼ぶような図書を突きつめて展示しても良い。 現在も行われているが、地区図書館では、福祉施設や文化センター行事と連携しておはなし会などをより積極的に行ってほしい。 学習意欲のある子どもを手助けし、情報提供や問題解決への支援を行うことは非常に重要であり、図書館職員がその助となる仕事をしていると知ってもらうことも重要である。 児童書は手に取ってみたいという意欲が湧くので、地区図書館の蔵書充実を望みたい。	・児童書所蔵数 362,423冊 ・企画テーマ展示 17回 ・おはなし会 中央：85回 延べ974人 地区：288回 延べ1,869人 ・ブックトーク 3回 延べ15人（中央） ・赤ちゃん絵本文庫 36回 966人登録 ・児童向けイベントの回数 中央：5回 延べ1,350人 地区：52回 延べ3,965人 ・小さい子のおはなし会の際に、絵本の紹介等のフジ講座と、乳幼児と保護者が関わりやすい環境を整備できる親子DE読書タイムを実施した。（中央） ・おすすめ図書リストの作成数 新規2種 継続6種 ・子ども読書活動推進委員会の開催回数 4回 ・子ども読書活動推進委員会主催イベントの開催数 12回 延べ116人	・対象年齢ごとに、各種イベントを実施することができた。 ・地区図書館では、各施設等のイベントと連携した事業を展開し、おはなし会や読書キャンペーンなど、子どもと本を結ぶための魅力ある取組を行う。 ・地区図書館では、施設のイベントと連携した事業を行う。	・「第5期府中市子ども読書活動推進計画」に基づき、引き続き読書環境を整備し、おはなし会や読書キャンペーンなど、子どもと本を結ぶための魅力ある取組を行う。 ・地区図書館では、施設のイベントと連携した事業を行う。	児童サービスについては、中央図書館、地区図書館ともに多彩な事業が行われている。おはなし会は当然ながら年齢にあった企画を行っており、参加者も増えている。「親子DE読書タイム」も子育て支援につながる取り組みとして評価したい。昨年度同様子ども読書活動推進委員会の取り組みも適切に行われている。今後はおはなし会や読書環境と文化センターの協力・連携によって行う事により参加者を増やすことができると思う。 子どもと本を結ぶための魅力ある取組に期待して、府中市立小中学校教育研究会図書館研究部などと連携して、子どもと本の結びつきを強めてもらいたい。
		イ 健全育成及び安全性などに配慮し、子どもたちが安心して利用できる環境を提供します。	・企画テーマ展示の回数 ・青少年向けイベントの回数	・企画テーマ展示 5回 ・夏休みキャンペーン「My Favorite Things」×ラグビーのまち府中へ君にパス1繋げよう「お気に入り」ボール〜」 延べ30人※明星中学校2年生と協働	・中学、高校生世代に役立つ資料を揃え、読書への働きかけを継続して行う。 ・青少年向けのイベントを実施し、図書館利用へとつなげる。	進学や塾での勉強、また部活などで自分の興味や趣味が広がる年代であり、図書館離れが起きる世代でもある。しかし、彼らの状況を受け止め、彼らの感性にあった資料やイベントを行うことで、図書館を居心地の良い場所として捉え、利用を拡大することができる。中高生世代と協働した取組なども有効であり、当年度もそのような取組が行われたことを評価する。今後も中高生で図書館のイベント企画に携わってみたい人を公募したり、図書館がボランティアの体験を経験する機会を増やしたりしてほしい。 なお、中高生世代の「不読」（特に高校生は不読率5割）がよく指摘される一方で、よく本を読む中高生の姿や声はあまり表に出てこない。部活をやっているも受験勉強をしながら本をよく読む中高生の読書術などを積極的に発信する必要がある。 多様な中高生世代に図書館利用の有効性を説く機会も必要である。社会に生きる知識を学ぶには自分で検索し、自分で知識に辿り着く過程が如何に重要であるかを知らせることも必要である。ネット検索で容易に結論だけを得ても蓄積されるものは限りがある。最初の直接的結論だけではなく、多様な情報の中から最も適切な答えは自分で探る過程が大切であると知ってもらうために、人と人との接触による学習は不可欠である。また、ネットで得た知識をどのように活用するかということも知るべきである。図書であれネット情報であれ、そこで得た知識をいかに活用するか、そのためには適切な助言が必要である。図書館の企画として支援が出来るイベントがあることが望ましい。 中高生を特に「ヤングアダルト（※4）」と分類してサービスを提供することは、特に不読率が高く、本を従まなくなってしまう傾向のある世代であるため、必要であるが、「ヤングアダルト」という名称はあまり一般的ではなく、当事者にとっても自分たちのことを表しているという意識も希薄である可能性もあるため、「ティーンズ」などの名称に変更を検討しても良いのではないかと、また、当該コーナーの場所・蔵書内容については中高生世代自身の意見を参考にし、工夫することが重要と考える。 ※4 ヤングアダルト…子どもと大人の間に位置する中高生世代を中心とした若者たちを表す図書館用語。一般的に図書館離れが進む世代と言われているため、個別に分類してサービスを充実することが考えられています。（「第5期府中市子ども読書活動推進計画」内、令和5年度調査より：不読率、小学生3%、中学生7%、高校生52%）	・企画テーマ展示 5回 ・市制施行70周年記念読解きイベント「消えゆく図書館と謎の未来日記」公演型延べ465人、周遊型延べ927人府中市立中学校の職場体験生にストライプを体験してもらい、難易度や改善点について意見ももらった。	・それぞれ取組を通じて、中学、高校生世代へ読書の働きかけを行うことができた。特に市制施行70周年記念読解きイベントでは、普段図書館に來ない層への図書館のPRを行うことができた。来館へとつながった。	・中学、高校生世代に役立つ資料を揃え、読書への働きかけを継続して行う。 ・青少年向けのイベントを実施し、図書館利用へとつなげる。	市制70周年記念読解きイベントは、ヤングアダルト世代にとって興味深いイベントで参加者も多かった。図書館を再認識してもらい取組になったと思う。とかく図書館離れが起きる世代であり、彼らの感性にあった取組を図書館が提供するこの意義は大きい。今後も中学・高等学校との協働事業を拡大し、彼らの感性に訴える取組を行ってほしい。 また、ヤングアダルトコーナーには、小説だけでなく、実用的なニーズをキャッチした資料が必要なのではないか。若者たちの感性にあったノンフィクション資料も充実してほしい。同時に、ヤングアダルト世代が、書籍から学ぶこと、画面で学ぶこととの違いが分かるように、それぞれの特徴を分かりやすく説明し、情報の質や量の違いを実感できる場を設けてみてはどうか。 府中市の友好都市の大学などの情報も配架して、相互交流を行い、府中市に貢献することで市内や、国内に留まらない国際的な育成の場を築きつくりを目指してほしい。 成人年齢が下がったことで、成人の意識を学ぶ場を広く増やしてはどうか。若者の投票率が問題になっている今日、選挙が自分自身の日々の暮らしにどのように関わっているのかを知るための展示や講座があってもいいのではないかと。 また、現代の政治や社会状況などについても青少年が学ぶ機会を感じさせる情報発信があってもよい。 サポーター広告を入れた読書通帳を導入して、本質的にアプローチすることも有効と考える。 中学・高校生世代は、スマートフォンを持っている人が多いので、電子図書館を活用してスマートフォンから読書へ誘うような働きかけもほしい。 府中市立小中学校教育研究会図書館研究部の小学校での研修で、中学校の図書室を担当する司書の方に講師をお願いして、中学校図書室の本の種類、見せ方、本の薦め方などを学んだことがある。その経験を小学校の6年生児童に伝え、中学校への進学を楽しみにしてもらったことがある。入学、進学に向けて、他の学校の図書室に目を向け、連携することは効果的であり、図書館からもサポートしてもらいたい。 「ヤングアダルト」が図書館用語であることは尊重するが、利用者向けに提示する場合は一考が必要で、中学・高校生などに響くような表現が必要である（「ヤングアダルト」が外せないならば、併記しても良い）。ヤングアダルトより若い世代に伝わりやすい表現が必要である。 また、学校や図書館で行われる推薦図書は往々にして読書の押しつけ的印象になりがちで、若い頃の読書体験談や思い出を学校の先生から募ったり、著名人のコメントから引用したりして、若い頃の読書がどれだけの栄養源となるかを伝える試みがほしい。	
		エ 学校図書館にある資料で解決できない調べ学習の課題などに、資料提供やレファレンスにより支援します。	・学級貸出の貸出総数、1クラス平均冊数（小・中学校） ・まちたんけん、社会科見学の受入人数 ・職場体験受入人数	・学級貸出 貸出総数 12,618冊 1クラス平均冊数 小学校：26.3冊 中学校：4.3冊 ・まちたんけん、社会科見学の受入人数 中央：2回 地区：15回 ・職場体験受入人数（中央）10校35人 ・職場体験受入人数（地区）9校38人	・学級貸出を継続して行い、学校図書館の支援に努める。 ・引き続き、まちたんけんや社会科見学の職場体験が再開されたことから、中央・地区図書館それぞれで受入れを行った。	学級貸出数及びクラス平均冊数も増えてきている。また、まちたんけんや社会科見学の職場体験の受入れも各館で行われていることを評価したい。 学校図書館の機能と市立図書館の性質の違い及び活用方法や提供されるサービスについて周知が必要であり、正確に理解してもらうためには見学の受け入れは非常に重要である。職場体験に実施した生徒には、問題解決の過程探しや図書の選定作業も体験させる有意義である。学習支援の観点から教員との連携事業（例えば、調べ学習の情報共有等）や、学校司書に対する研修事業へのバックアップなどサービスの強化に取り組んでほしい。 （9）のヤングアダルトサービスとの連携で、学校図書館と協力して中高生世代の意見を聴取してニーズなどを汲み取っていく必要がある。 また、電子図書館についても、学校との連携を模索しながら、引き続き学校図書館を支援する重要な機能として考えてもらいたい。	・学級貸出 貸出総数 11,225冊 1クラス平均冊数 小学校：26.3冊 中学校：0.6冊 ・まちたんけん、社会科見学の受入人数 中央：4回 地区：17回 ・職場体験受入人数（中央）6校22人 ・職場体験受入人数（地区）8校20人 ・小学校出張おはなし会 8回1校（中央） ・小学校出張ブックトーク 2回1校（中央） ・「ふちゅう電子図書館」の学校連携用アカウントのテスト校での試験実施 小学校2校 中学校1校	・学級貸出セットの見直しを行い、学校図書館の支援に努める。 ・引き続き、まちたんけんや社会科見学の職場体験等の受入れや、出張おはなし会やブックトーク等のアウトリーチ活動の案内の見直しや、小学校への出張おはなし会やブックトークを再開する等、学校へのアウトリーチ活動や支援に力を入れた。 ・「ふちゅう電子図書館」と学校との連携において、テスト校での試験実施を行い、そこでの課題を反映し、全校実施のための準備を進めることができた。	・学級貸出セットの受入れや、出張おはなし会やブックトーク等のアウトリーチ活動の案内の見直しや、小学校への出張おはなし会やブックトークを再開する等、学校との連携を推進する。	「まちたんけん」や社会科見学の職場体験の受入れも行われている。新たな取り組みとして「小学校出張おはなし会」や「小学校出張ブックトーク」が行われたことを評価する。 また、「ふちゅう電子図書館」の学校連携を模索する取り組みとして、テスト校での試験実施も行われ、その成果を期待したい。特に、印刷資料と電子書籍のハイブリッドな学校支援に期待している。 学校貸出しの期間が6週間と長く、時間をかけて調べ学習や読書に取り組むことができる。小学校では図書委員会の活動を通して読書活動を推進して、電子書籍の冊数が増えて、児童や教員から喜びの声があがっている。印刷資料も電子書籍も含めて、傍らに読みかけの本を置くという指導に役立っているという声もある。 「全国学力・学習状況調査」の結果から家にある本の冊数が多い児童・生徒ほど、各教科の正答率が高いという結果が出ている。家庭における蔵書数、新聞を読む機会が減っている中で、学校図書館や公民館蔵書の果たす役割は大きい。引き続き、図書館が学校図書館との連携・支援を行い、学校司書対象の魅力的な学校図書館を作るための研修会の実施や、電子図書館の充実、まちたんけんや職場体験への協力など、学校図書館の支援に取り組んでもらいたい。	
(10) 学校支援サービス	ア 学校図書館にある資料で解決できない調べ学習の課題などに、資料提供やレファレンスにより支援します。	・学級貸出の貸出総数、1クラス平均冊数（小・中学校） ・まちたんけん、社会科見学の受入人数 ・職場体験受入人数	・学級貸出を継続して行い、学校図書館の支援に努める。 ・引き続き、まちたんけんや社会科見学の職場体験が再開されたことから、中央・地区図書館それぞれで受入れを行った。	学級貸出数及びクラス平均冊数も増えてきている。また、まちたんけんや社会科見学の職場体験の受入れも各館で行われていることを評価したい。 学校図書館の機能と市立図書館の性質の違い及び活用方法や提供されるサービスについて周知が必要であり、正確に理解してもらうためには見学の受け入れは非常に重要である。職場体験に実施した生徒には、問題解決の過程探しや図書の選定作業も体験させる有意義である。学習支援の観点から教員との連携事業（例えば、調べ学習の情報共有等）や、学校司書に対する研修事業へのバックアップなどサービスの強化に取り組んでほしい。 （9）のヤングアダルトサービスとの連携で、学校図書館と協力して中高生世代の意見を聴取してニーズなどを汲み取っていく必要がある。 また、電子図書館についても、学校との連携を模索しながら、引き続き学校図書館を支援する重要な機能として考えてもらいたい。	・学級貸出 貸出総数 11,225冊 1クラス平均冊数 小学校：26.3冊 中学校：0.6冊 ・まちたんけん、社会科見学の受入人数 中央：4回 地区：17回 ・職場体験受入人数（中央）6校22人 ・職場体験受入人数（地区）8校20人 ・小学校出張おはなし会 8回1校（中央） ・小学校出張ブックトーク 2回1校（中央） ・「ふちゅう電子図書館」の学校連携用アカウントのテスト校での試験実施 小学校2校 中学校1校	・学級貸出セットの見直しを行い、学校図書館の支援に努める。 ・引き続き、まちたんけんや社会科見学の職場体験等の受入れや、出張おはなし会やブックトーク等のアウトリーチ活動の案内の見直しや、小学校への出張おはなし会やブックトークを再開する等、学校へのアウトリーチ活動や支援に力を入れた。 ・「ふちゅう電子図書館」と学校との連携において、テスト校での試験実施を行い、そこでの課題を反映し、全校実施のための準備を進めることができた。	・学級貸出セットの受入れや、出張おはなし会やブックトーク等のアウトリーチ活動の案内の見直しや、小学校への出張おはなし会やブックトークを再開する等、学校との連携を推進する。	「まちたんけん」や社会科見学の職場体験の受入れも行われている。新たな取り組みとして「小学校出張おはなし会」や「小学校出張ブックトーク」が行われたことを評価する。 また、「ふちゅう電子図書館」の学校連携を模索する取り組みとして、テスト校での試験実施も行われ、その成果を期待したい。特に、印刷資料と電子書籍のハイブリッドな学校支援に期待している。 学校貸出しの期間が6週間と長く、時間をかけて調べ学習や読書に取り組むことができる。小学校では図書委員会の活動を通して読書活動を推進して、電子書籍の冊数が増えて、児童や教員から喜びの声があがっている。印刷資料も電子書籍も含めて、傍らに読みかけの本を置くという指導に役立っているという声もある。 「全国学力・学習状況調査」の結果から家にある本の冊数が多い児童・生徒ほど、各教科の正答率が高いという結果が出ている。家庭における蔵書数、新聞を読む機会が減っている中で、学校図書館や公民館蔵書の果たす役割は大きい。引き続き、図書館が学校図書館との連携・支援を行い、学校司書対象の魅力的な学校図書館を作るための研修会の実施や、電子図書館の充実、まちたんけんや職場体験への協力など、学校図書館の支援に取り組んでもらいたい。			

府中市立図書館サービス状況調査表

令和6年度実施事業の評価（評価実施時期：令和7年度上半期）

基本方針	提供するサービス	事業内容	指標	（参考）令和5年度実施事業の評価			令和6年度実施事業の評価						
				実績	評価	今後の方向性	委員の意見等	実績	評価	今後の方向性	委員等の意見		
3 情報化社会における市民の情報拠点となる図書館	(11) 視聴覚サービス	ア 視聴覚資料は、その他の資料との関係を考えて、音声・映像資料（CD、DVDなど）を収集します。 イ 映像資料の貸出や視聴覚機器を配置し、館内での視聴を可能にするなど、視聴覚資料ならではの様々なサービスを展開します。	・視聴覚資料の所蔵数 ・視聴覚利用回数 ・企画テーマ展示の回数 ・映画会の実施回数	・視聴覚資料の所蔵数66,797点（再掲） ・視聴覚利用回数7,162回 ・企画テーマ展示18回 ・映画会実施回数1回（パリアフリー上映会「アラヤシキの住人たち」：参加者19人）	B	・劣化の著しい資料を中心に、引き続き蔵書構成の見直しを進めた。 ・ナクソスミュージックライブラリーのリファラー認証導入によって、利用者の利便性が向上し、多くの利用があった。	・引き続き、音楽・映像業界の多様化等、時代の変化を踏まえつつ、図書館ならではの資料収集やサービスの展開を検討していく。 ・劣化の著しい資料を中心に所蔵資料の見直しを進め、利用者にとってより魅力的な蔵書構成を目指す。	長年、視聴覚資料の充実にも努め、視聴覚資料の所蔵数は、他自治体の図書館に比べて充実している。ナクソス・ミュージック・ライブラリーの利便性も向上し評価できる。今後も時代の変化をたどるサービスの提供方法などを工夫しながら、より良いサービスの提供に努めてもらいたい。 なお、時期に合った映画会などで集客を図り、図書館への興味を呼び起こすことは有効である。 現在、図書と視聴覚資料とは貸出期間が異なるが、それでは同日に借りても返却のために二度足を運ばなければならない。図書であれば、視聴覚資料であれば、貸出期間が同一であれば借も返却も一度で済むので、検討してもらいたい。	・視聴覚資料の所蔵数67,152点 ・視聴覚利用回数6,996回 ・企画テーマ展示17回 ・映画会実施回数1回（パリアフリー上映会「じんじん」：参加者26人）	B	・劣化の著しい資料を中心に、引き続き蔵書構成の見直しを進めた。 ・より多くの視聴覚資料を借りてもらうきっかけ作りとして、資料の特集ページを併に追加導入を検討し作業を進めた。	・引き続き、音楽・映像業界の多様化等、時代の変化を踏まえつつ、図書館ならではの資料収集やサービスの展開を検討していく。 ・劣化の著しい資料を中心に所蔵資料の見直しを進め、利用者にとってより魅力的な蔵書構成を目指す。	視聴覚資料の所蔵数が着実に増加していることは評価できる。しかし、昨年度に比べると視聴覚資料の貸出点数も視聴回数も減少している。長年、視聴覚資料の充実にも努め、その所蔵数も他の図書館に比べれば多いが、作品内容や媒体が古くなっているのではないかと、劣化した資料の入れ替えなどを行い、新鮮味のある蔵書構成となるようにしてほしい。 また、スマートフォンやタブレット、パソコンでの動画視聴の普及により代替されてしまっている可能性はある。視聴者のニーズは決められたものを見る、あるものを視聴する（テレビ等）ニーズから、興味のあるものを自由に視聴する（動画配信等）に移り変わっており、両者を選択的に視聴しているのではないかと、維持コストを考えるとサービスの方法の検討も必要であろう。
		ア ホームページや配信メールの活用により、資料及び図書館に関する情報を迅速に利用者へ提供します。 イ 紙媒体・電子媒体の資料の整理と活用を図るため、情報検索の手段となるデータベース化を行います。 ウ レファレンスの質問や新聞記事見出しなどのデータベース化を継続し、情報提供の支援を行います。 エ 市民が利用するインターネット端末を整備し、情報収集の機会を提供します。 オ 様々な理由で図書館に来館することが困難な方向けに、電子図書館などの非来館型サービスを実施します。	・ホームページのアクセス数 ・データベース利用者数 ・インターネット席利用者数 ・電子書籍サービス（タイトル数、ログイン数、閲覧回数、閲覧貸出数）（再掲）	・ホームページのアクセス数1,724,206件 ・データベース利用者数829人（うち国立国会図書館デジタル化資料送信サービス閲覧利用者110人、国立国会図書館歴史的音源利用者7人） ・電子書籍（タイトル数11,933点、ログイン数25,318回、閲覧貸出数34,011点）（再掲）	B	・ホームページを更新し、地区図書館や特集展示のイベントの開催など発信情報を充実させた。 ・市民のニーズに応じたデータベースを提供できた。 ・電子書籍サービスとして、多量な多読した電子書籍サービスを開始し、順調に利用いただいた。	・既存データベースの活用方法の周知に努める。新たなデータベースの導入検討を行う。 ・電子書籍サービスの周知に努め、多くの方に利用してもらえよう工夫をする。	ホームページでの情報発信は適宜行われているが、アクセス数は減っている。コロナ禍の影響と中央図書館の長期休館の影響が大きいものと判断し、令和5年度の数字がノーマルな数字と捉えた。今後も図書館のホームページやSNSを活用してイベント情報や図書館職員の仕事などのPRを情報発信していく必要がある。 電子書籍の利用は大幅に増えている。コンテンツも増えているが、コンテンツの更なる充実にも努め、利用の拡大を図ってもらいたい。また、インターネットの予約サイトに電子書籍予約のリンクをお願したい。 データベースの利用数が増え、有効なオンラインデータベースが導入されていると評価できる。国立国会図書館デジタル化資料送信サービスやオンラインデータベースの有効性の周知や活用方法の講座などを企画することで、より一層の利用促進につながると思う。 中央図書館も地区図書館もイベントを積極的に広報すべきである。広報は資料の展示になりがちだが、図書館の利用価値について、図書館職員が出来る支援や、図書館職員が身近な存在になることも広報すべきではないか。実際に図書館職員として働いているスタッフの存在についても分かりやすく伝え、その業務や、図書の管理、補修、選書の苦勞なども知らせていく必要がある。 来館しない市民に対して、図書館の利用ガイドや学習のヒントとなる情報を発信し、来館を促してもらいたい。	・ホームページのアクセス数1,644,607件 ・データベース利用者数521人（うち国立国会図書館デジタル化資料送信サービス閲覧利用者50人、国立国会図書館歴史的音源利用者7人） ・インターネット席利用者数7,662人 ・電子書籍（タイトル数13,176点、ログイン数28,508回、閲覧貸出数38,708点）（再掲）	B	・ホームページに地区図書館や特集展示のイベントの開催などを掲載して周知した。 ・電子図書館のさらなる周知とコンテンツの充実にも努め、より多くの方に利用してもらえよう工夫をする。 ・令和7年3月で電子図書館のサービ開始から2年が経過し、ログイン数、閲覧貸出数ともに増加している。	・既存データベースの周知を積極的に進めたい。 ・電子図書館のさらなる周知とコンテンツの充実にも努め、より多くの方に利用してもらえよう工夫をする。 ・ホームページや『図書館だより』等による広報活動についても、引き続き積極的に取り組んでほしい。ただし、内容がデジタル化のデザインのように感じられ、写真等の活用によりイベント等の様子が見えやすくなるなど、視覚的に市民に読んでもらえる内容にしてほしい。市民や府中市に関係する著名人等、様々な世代、ジャンルのおすすめ本を紹介する内容を掲載するなど、本の魅力を発信するのよよいと思う。 また、非来館型のサービス提供は時代の趨勢であるが、来館して学ぶこととの差を理解する施策も必要である。来館者が共通の課題で学ぶ場として、同好の士が交わる場を設ける。人と人との交流が拡大し相互に研鑽する場としての機能も検討してほしい。 地区図書館のイベントは、日頃から図書館を利用する本の好きなど子ども達には分かるが、イベントの情報を知らない子ども達もいる。それを改善するため、併設されている文化センターなどと一緒に広報活動を行ったり、地区図書館職員と学校図書館職員が顔を合わせられる機会をつくることも有効であろう。	
4 市民の誇りとなる図書館	(13) 地域情報の提供サービス	ア 郷土資料や行政資料など地域資料の整備と活用を図り、市民及び市政への情報提供を行います。 イ 地域資料のデジタル化を実施し、紙資料の保存と資料閲覧における利便性の向上を図ります。さらに、閲覧を希望する方がいつでも活用できるように、デジタル化した資料を著作権に留意しながら、インターネットで提供します。	・地域資料の所蔵資料数 ・地域資料の修繕数 ・「こども府中はかせ」の発行回数 ・地域資料デジタル化点数（令和4年度開始）	・地域資料の所蔵資料数 92,524点 ・地域資料の修繕数 26点 ・こども府中はかせ14号「府中の用水」発行 ・地域資料デジタル化点数116件	B	・難解な地域資料を、児童へ向けて平易な表現にした冊子を作成した。 ・幅広い世代の利用者が郷土に関する資料に触れやすい環境を整える。 ・地域資料のデジタル化を進める。	歴史ある府中市において、図書館が地域資料の収集を積極的に行い、その組織化と提供、保存に努めている点は評価したい。特に8か年計画で進めている地域資料のデジタル化事業は高く評価するとともに、国立国会図書館と連携した取組として他の図書館のモデルになる事業である。 また、子ども向けの「こども府中はかせ」の発行も良い取組であった。難解な地域資料を平易な表現にした冊子を作成したことは好ましいことである。子どもだけでなく多くの世代の市民が地域情報を容易に理解するには有効だろう。この冊子で提供される情報は既に地域資料に限らず、実際に市民や団体が活動している知られざる新鮮な情報も取りまとめで提供されることが望ましい。学校との連携でも使える資料であり、今後も継続した発行をお願いしたい。 『新府中市史』刊行関連の講演会や地域関連資料の企画展示などを行い、地域の図書館としての役割を果たしてもらいたい。	・地域資料の所蔵資料数 93,583点 ・地域資料の修繕数 28点 ・こども府中はかせ1～10号改稿・製本 ・地域資料デジタル化点数107件	B	・平成23年から令和2年に発行したこども府中はかせを改稿し、製本した。 ・8か年計画の13年目として地域資料のデジタル化を実行した。	・引き続き、府中市に地域資料の収集とデジタル化において着実な成果を挙げている。歴史ある府中市において、図書館が地域資料の収集を積極的にを行い、その組織化と提供、保存に努めている点は評価したい。特に8か年計画で進めている地域資料のデジタル化事業は高く評価するとともに、国立国会図書館と連携した取組も評価したい。 また、地域資料のデジタル化は、学校や家庭など、様々な場所・機会に閲覧できるように大変便利である。 他方で、このような地域資料の開示や利用についての啓発活動も望ましい。例えば、わがまち（自治会・町会）の歴史や由来についてのモデル展示なども有効だろう。 『新府中市史』が刊行され、さらなるデジタル化も含め、地域資料をより利用しやすくしてほしい。 また、子ども向けの「こども府中はかせ」の改稿・製本が行われた。学校との連携でも使える資料であり、今後も継続した取組をお願いしたい。 観光プロモーション課や府中観光協会の「SDGs探究学習プログラム」との連携なども視野に入れ、図書館を情報拠点として、府中市の魅力や市内外にアピールしてほしい。		
		ア おはなし会や対面朗読などの講習会を実施し、図書館や学校などで活躍するボランティアを養成します。 イ 図書館におけるボランティア活動を推進し、市民との協働を積極的に進めます。 ウ 音訳ボランティア養成講座の回数	・ボランティアの登録者数 ・読み聞かせ講習会の回数 ・おはなしボランティアステップアップ講座の回数 ・音訳ボランティア養成講座の回数	・ボランティアの登録者数 おはなしボランティア 60人 音訳ボランティア 25人 宅配ボランティア 23人 布絵本作成ボランティア 4人 読み聞かせ講習会 6回 延べ116人 おはなしボランティアステップアップ講座 8回 延べ375人 音訳ボランティア養成講座 8回 延べ73人	B	・市民対象の読み聞かせ講習会の応募方法について、従来の往復はがきに加え、申込み専用フォームからの受付を開始し、利便性の向上に努めた。 ・音訳ボランティアの養成については、音訳ボランティアのステップアップ講座とオンライン講座とを併用し、令和3年度に加入したボランティアの方の技術向上を図ることができた。 ・宅配ボランティアについて、広報ふちゅうに募集記事を載せて登録者数を増員した。	・引き続き図書館や学校などで活躍するボランティアを養成し、図書館事業における協働についても継続して進めていく。 ・音訳ボランティアについて、新規で募集を行い、担い手を確保する。	以前から多くのボランティアの皆さんに協力をいただき様々なサービスを展開しており、その点は高く評価したい。また、新規ボランティアの募集やスキル向上に向けた取組も適宜行われている。図書館での取組と同時にボランティアの皆さんの活動に感謝したい。安上り行政の温床とせず、ボランティアと協働し、共に成長する図書館を目指してもらいたい。 また、ボランティア全体の高齢化が進むなかで、これまで培ってきたノウハウや専門性を繋いでいくためには、幅広い世代のボランティアを増やす必要がある。働いていても参加しやすいように、養成の講座や講習会の開催も、時間の見直しなども検討してほしい。 実際に活動する場が地区図書館の場合は、養成講座も地域のほうが参加しやすい。図書館の継承や機能もPRすることでボランティアとの協働もとても良い。幅広い世代への活動の機会や地区図書館でのボランティア講座、子どもとボランティアの交流など、様々な活動を行う必要がある。 また、布絵本作成ボランティアの人数が少ないので、手芸サークルなどへの呼びかけや作品展示の実施などにより人数を増やすことができれば、「りんごの輪」の増加にもつながると思う。	・ボランティアの登録者数 おはなしボランティア 61人 音訳ボランティア 30人 宅配ボランティア 15人 布絵本作成ボランティア 4人 読み聞かせ講習会 6回 延べ148人 おはなしボランティアステップアップ講座 8回 延べ359人 音訳ボランティア養成講座 10回 延べ112人	B	・市民対象の読み聞かせ講習会の応募方法について、昨年度に引き続き、往復はがきに加え、申込み専用フォームからも受付を可能とした。ステップアップ講座では、時代やボランティアのニーズに合わせて講師をお招きし、技術向上を図ることができた。 ・令和6年度には新規で音訳ボランティアの採用を行うとともに初級のボランティア養成講座を行い、技術向上を図った。 ・宅配ボランティアについて、継続して募集しているが、利用者の住所とボランティアの方の希望する活動範囲にずれがあったため、活動を行えないボランティアの方が多かった。	多くのボランティアの皆さんに協力をいただき、様々なサービスを展開している。その点は高く評価したい。また、新規ボランティアの募集やスキル向上に向けた取組も適宜行われている。宅配ボランティアの活動範囲のずれの問題が起きているようであるが、せまのボランティア活動であり、ミスマッチのないような方策を考え、多くのボランティアの方に困ってもらわないようにしてほしい。 ボランティアによる本の読み聞かせは、子どもにとって語彙力や想像力を育て、情緒の安定や集中力が身に付くなど、子どもの発達に効果的な取り組みである。市民向けに読み聞かせの取り組み等について積極的に発信し、市民の方の理解を図るとともに、新たなボランティアの人材確保や、専門性の向上に引き続き取り組んでほしい。 また、若い世代がボランティアに参加しやすくなるように、講座の開催日時や時間、方法（オンラインの併用）の検討をすすめてほしい。そもそも、講座の開催情報自体が市民に十分に周知されているとは言えないように思うので、周知方法も工夫してほしい。 宅配ボランティアは、図書館の利用ばかりではなく地域の見回り効果なども期待できる。地域の交流拡大の効果ももたらすと期待されるので大いに推進してほしい。宅配ボランティアの活動が知られば、市民が図書館に目をつける動機につながる。利用者が増加することを期待する。 消費などの税金や毎年社会保険料も上がり続ける中で、実質賃金は下がりが続き、物価は30年前の2倍、貧困率はG7中で最低ランクという状況である。そのような厳しい社会情勢の中で、現役世代のボランティア活動は、なかなか厳しい状況になってきている。ボランティア活動を尊重しながらも、発想を転換して、福祉関連団体等との連携・協力を促すことによって、講師の質を高め、参加者のメリットにも繋がり、図書館サービス利用者である消費者の知財に専念に訴求したものの役割ではないかと、その点の検討も必要であろう。 毎年、読み聞かせ講習会を行っているが、非常に狭き門で何年も抽選に漏れている方もいる。受講人数を増やしてほしい。 また、ボランティアの登録について、募集人数や選考方法が分かりにくいので、選考基準などを明確にしてほしい。その際、他市や他団体で読み聞かせのボランティアをやっている経験も選考時に考慮してほしい。	

その他ご意見

「3 情報化社会における市民の情報拠点となる図書館」について、「市民の情報拠点となる図書館」を実現するサービスが（11）視聴覚サービス（12）情報発信サービスであることには大きな違和感がある。（11）はデジタルコンテンツの貸出であり、（12）は図書館が提供する情報の電子化の話である。いずれも「市民の情報拠点」という役割としてはストレートには結びつかない。
これらを別の役割（基本方針）の中に分類しなおすか、あるいは、「情報化社会における市民の情報拠点となる図書館」という役割（基本方針）名を変更するかする必要がある。ただ、「市民の情報拠点となる図書館」という役割設定は、生涯学習との関連でも極めて重要と思われるので、これを残して、それを実現する機能を明らかにすべきであろう。その際、「情報化社会」とはITの活用が進む社会であり、市民の情報拠点と言う場合には、市民が主体的にITを問題解決に使うための拠点と理解されるべきである。そうすると、考えられる機能としては、たとえば、
1 調べもの支援、情報源の多様化と提示
2 デジタル情報へのアクセス支援
3 生涯学習支援
4 地域化・国際化の支援
などが考えられ、他の施策（特にレファレンスサービス）と重なる部分があり調整が必要かもしれない。今後、検討されたい。

令和6年度実施事業の総合所見

府中市立図書館の第三者評価として、令和6年度も14項目のサービス内容について図書館協議会の中で審議し評価した。各委員からは、様々な評価する意見や改善案が提示された。それだけ府中市立図書館のサービスに期待するものも多く含まれ、活発な意見が交わされた。具体的な評価内容については、各項目を参照していただくこととなるが、図書館職員の方々のご努力に感謝したい。当然ながら、評価には、今後への期待や改善点の指摘が含まれる。今回、評価二年目ということで、各委員から多くの具体的な改善案が出された。図書館の運営方針や予算の問題もあり、即対応することが難しい案件もあると思う。しかし、より良いサービスを提供するための指摘であり、図書館内での協働を踏まえ、改善できる点には対応していただきたい。図書館の基本的な機能は情報提供である。それを支えるためには、人と情報と施設がうまく絡み合う必要がある。図書館職員を育て、情報の充実のための予算を確保し、そして市民の身近にある図書館施設を維持するため、より一層の努力をお願いしたい。今回の評価を活かしていただき、今後も市民にとって使い勝手のよい、役に立つ図書館を目指してもらいたい。